



学び舎に魂合わせ

令和4年11月18日(金)
第7号(2学期)
伊那市立東部中学校
作成 橋倉美奈子

多くの経験と学びがありました！

体育祭

10月24日(月)に体育祭が行われました。この日に向けて練習を重ねてきた大縄跳び。心を一つに、声を掛け合って挑戦していく姿は、それぞれの学級の団結力そのものでした。また、障害物競走、全員リレーと大変盛り上がり、全校で集まって行事ができる喜びと、東部中生のパワーを感じることであった時間となりました。



3学年 修学旅行

10月7, 8, 9日に、3年ぶりの奈良・京都への修学旅行が実施されました。1日目の奈良は雨に降られましたが、古の都を堪能することができました。2日目、3日目の京都でも素晴らしい建築物や庭園に感嘆する声が聴かれました。修学旅行らしく、学びの多い時間となりました。



2学年 キャリアフェス2022



11月10日(木)に、伊那市キャリアフェス2022が開催されました。市内の中学2年生が集まって、事業所の皆さんが開いてくださったブースに行き、お話を聞いたり体験等に取り組んだりしました。今回の開催にあたり、大勢の大人の協力と各中学校の実行委員のがんばりがありました。参加した2年生も学校ではできない貴重な体験をし、自分の将来につなげて考える機会となりました。

1学年 総合的な学習

1学年では、総合的な学習の時間において「食育」を題材に、クラスごとの課題を決め、地域の方の話を聞いたり、実際に果樹園等を訪問したりして、地域の特色ある食べ物について知識を深めています。リンゴ農園に訪問したクラスは、生産者の方からお話を聞き、実際に葉摘みや玉回しをしたり、りんごを食したりして、生産者の苦勞や流通の仕組みを知り、大変さややりがいを知ることができました。これらの取り組みから、より地域の食に関する意識を高め、地域の食を継承していくためには何が必要かさらに学びを深めていく予定です。



令和4年度 全国学力学習状況調査の結果から



中学3年生を対象に行われております全国学力・学習状況調査の結果について、本校生徒の状況についてお知らせします。

＊ ＊生徒質問紙より ＊ ＊

〈生活面〉

規則的な生活習慣が確立している生徒が多い。

〈自尊心 心の成長〉

『自分にはよいところがあると思う』と答える生徒が前年度より増えている。

〈いじめ 人間関係〉

『学校に行くのは楽しい』『困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる』と回答した生徒が多い。

〈学習面（家庭学習 読書 新聞等）〉

家庭での学習時間は、例年と変わらず、平日 30 分～2 時間、休日 1 時間～2 時間と回答する生徒が多い。読書については、『読書が好き』と答える生徒が毎年多い。「家においてある本の冊数」も多い傾向がある。また、『新聞を読んでいる』と答えた生徒が、昨年度より増えている。

〈地域とのかかわり〉

『地域の行事に参加している』『地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある』に対して「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した生徒は多いものの、『地域の大人との関わり』について「まったくない」と回答する生徒が多くみられる。

〈ICT 機器の使用状況〉

『ICT 機器を使って学習している』生徒の多くは「自分で調べる」場面での使用であり、「意見交換」や「発表する」場面での使用はまだまだ少ない。

〈授業に関わって〉

『学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか』の質問に対し、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した生徒が増えている。一方授業内で『自分の考えをまとめる活動』や『新しいものを創り出す活動』が不足している様子も見られる。

〈道徳 学活 総合について〉

例年、総合的な学習の時間の中で『自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなど学習活動に取り組んでいる』ことにやや不十分さを感じている生徒が多い。学級活動や道徳では、『学級内で仲間と話し合い、互いの良さを認め合う活動』が位置づいている様子が見られる。

<全体を通して>

「東部中 Pride」の二つの重点目標である「自主・自立」「多様な学び～生き方へ～」により、自他を大切にすることが進みつつあると考えられます。さらなる相互理解や社会貢献への意識も大切に育てていきたいと思えます。また総合的な学習の時間では、学校、家庭、地域が一体となった活動をさらに充実させていきたいと思えます。授業や家庭学習において、当たり前のように ICT を使用し、それが「自分の学習に役立っている」と実感できるような授業改善や実践の積み重ねを行っていききたいと思えます。また、知識・技能から、思考・判断・表現を重視する学習活動の充実を目指していきます。



学力の状況から

国語の調査

国語の勉強の大切さを自覚し、社会に出たときに役立つよう前向きに学習し、授業内容はよくわかると感じている生徒は、例年に比べて全国平均並みとなっていますが、国語の学習が好きだと感じている割合がやや低い傾向があります。

昨年度の結果と比較すると、『書くこと』と『読むこと』は大きな改善が見られます。一方で、「話すこと・聞くこと」では課題があります。

授業の中で小グループでの話し合い活動を積極的に取り入れるなど、友と意見を交流する機会を増やしていくとともに、生徒の興味関心を引き出す授業づくりにも努めていきたいと思えます。

数学の調査

本校では『数学の勉強が好きである』と回答した生徒が全国平均を上回り、この項目は近年上昇傾向にあります。他にも『授業内容がよく分かる』と回答した生徒の割合がかなり高く、普段の授業改善の成果があらわれていることが分かります。一方で『普段の生活と数学を結びつけようとする』意識は低い傾向にあります。特に「図形」や「関数」の領域に苦手意識を持っている生徒が少なくありません。「関数」領域では関数そのものの意味や日常とつながりについて、「図形」領域では、なぜその事柄が成り立つのか、理由を説明することについて多くの生徒が苦手意識を持っていることが、無回答率の高さからも読み取れます。

今後、本校の数学科では、日常生活に関わる題材や課題について問題意識をもたせ、数学的に解決していく授業を実践していきます。また、既存の教科書とノートのみでの学習ではなく、生徒が ICT 機器を自在に操り、明確ではない未来の事象について関数的に処理をしたり、多面的・多角的に図形を読み取ったりできるような単元の展開をしていきます。

理科の調査

『理科の学習が好き』と答えた生徒の割合が、やや低い傾向がありますが、一方で『理科の学習は大切だ』と感じ『授業内容もよくわかる』と思っている生徒が多くみられます。また、日常の授業から「理科でつきたい力」を意識して学習できていることが伺えます。しかし、数学と同様、『普段の生活と理科を結びつける』意識は低い傾向にあります。

理科は生活と密着している教科です。授業の中に生活に関わる課題を取り入れたり、実験材料に使ったりなどの手立てを考えていきたいと思えます。